

第5回 第2次福井市都市交通戦略協議会 議事録(要旨)

日 時:令和3年12月21日(火) 午後3:00~午後4:20

会 場:AossA6階 601 会議室(A)、(B)、(C)

出席者:第2次福井市都市交通戦略協議会

川本 義海 会 長(国立大学法人福井大学 学術研究院工学系部門 教授)
浅沼 美忠 副会長(福井県立大学経済学部 教授)
佐々木 大二郎 委 員(えちぜん鉄道株式会社 営業開発部長)
澤崎 幸夫 委 員(福井鉄道株式会社 鉄道部長)
矢崎 孝明 委 員(京福バス株式会社 常務取締役)
福山 真也 委 員(福井鉄道株式会社 自動車部長)
岩崎 正夫 委 員(まちづくり福井株式会社 代表取締役社長)
佐々木 貞明 委 員(一般社団法人福井県タクシー協会 専務理事)
宮本 久仁彦 委 員(国土交通省近畿地方整備局 福井河川国道事務所長)
増田 幹雄 委 員(福井県土木部 都市計画課長)
三ツ井 忠男 委 員(福井県警察本部交通部 交通規制課長)
遠田 公一 委 員(福井市自治会連合会 副会長)
西川 征男 委 員(福井市老人クラブ連合会 副会長)
山田 栄司 委 員(福井県高等学校PTA連合会 事務局長)
畑 みゆき 委 員(特定非営利活動法人ふくい路面電車とまちづくりの会 副会長)
春日野 道治 委 員(福井商工会議所 地域振興部長)
神戸 英至 委 員(国土交通省中部運輸局福井運輸支局 首席運輸企画専門官)
堤 宗和 委 員(福井県地域戦略部 交通まちづくり課長)
大石 秀和 委 員(福井県地域戦略部 並行在来線課長)

事務局:福井市都市戦略部長

都市戦略部理事

都市戦略部次長

都市戦略部交通政策参事官兼交通安全参事官

都市戦略部副理事(都市整備課長)

// 副理事(新幹線整備課長)

// 副理事(情報統計課長)

// 都市計画課長

// 地域交通課長

// 自転車利用推進課長

// 都市整備課

【議事内容】

○事務局より

新型コロナウイルス感染症対策のため、マスク着用を呼びかけてから、市都市戦略部長から開会の挨拶、その後は川本会長へ進行をお願いした。

○会長

昨年9月の第2回協議会にて、別途、検討部会を設置し、福井駅周辺を対象とした地区交通戦略の検討をすすめることとなり、私が部会長を務め、これまで議論を重ねてきた。前回、前々回の協議

会でも、検討部会の進捗状況は説明してきたが、先日、検討部会としての案を取りまとめた。

既に、委員の皆さんには、事務局から事前に地区交通戦略(案)が手元に届けられていると思うが、本日の協議会はこの地区交通戦略(案)の内容についての議論を行うもの。それでは、事務局から説明願う。

○事務局

事務局より、『福井駅周辺地区交通戦略(案)』を説明

(各委員へは『福井駅周辺地区交通戦略(案)』の冊子を提示している。掲示は割愛する。)

○委員

よくまとまっていると思う。ぜひこの方向で進めてもらいたい。

戦略(案)P.54 のサインについて。列車を降りて歩き始めた瞬間からサインが充実しているのはとても大切なことだと考える。具体的に方向性や方法など検討されているものがあるか。

○事務局

公共サインについては、福井市公共マニュアルに基づいている。

新幹線開業に向けては、駅舎、コンコース、駅周辺部について、検討部会を設けてサイン表記の統一や足りないサインの追加などを検討し、新幹線開業までに整備をしていく。この検討部会はすでに数回開催しており、鉄道事業者、バス事業者、駅広場の管理者である県にも入ってもらい、調整を進めているところ。

○会長

今は新型コロナウイルス感染症の影響があるが、今後、コロナ禍が落ち着くと、多くの外国人観光客が訪れることが期待される。海外の方向け、あわせてユニバーサルデザインについても考えられていると思うが、重点地域でもあるので、しっかりやっていただきたい。

○事務局

インバウンド対策についても、P.55 に記載している調整例のように、名称を揃えることやピクトグラムを統一することなど、みんなにとってわかりやすいサインを心掛けている。

○委員

P.41 の評価指標、中心市街地活性化についての満足度だが、多面的、先進的な事業も含めて、ここまで網羅的に戦略を立てて取り組むのであれば、市民の満足度 50%は低すぎないか。

○事務局

令和2年の満足度は、市民意識調査で「満足」、「ほぼ満足」を合算して42.1%であった。これまで様々な取り組みを行ってきたこと、また、現在市街地再開発事業も動き始めているが、厳しめの評価をいただいている。したがって、まずは半数の方に満足の評価をしていただきたいと考えている。

○会長

アンケートは市全域を対象にしていることを踏まえる必要がある。中心部にお住まいの方と中心部以外にお住まいの方では評価は変わってしまう。やはり、中心部に近い方が評価は高くなるのではないだろうか。市全域を対象としたアンケート調査なので、評価としては薄まってしまうことは仕方なく、そういったところを加味して50%としている。

ただ、「満足」と「やや満足」をわけて分析すると捉え方は変わってくると思われる。両方を合算した数値は横ばいでも、「やや満足」が減って、「満足」が増えている結果なら、実質的には「満足度」は

高まっているということになる。今後、PDCAチェックの機会にそういったところも分析していくとよいのではないかと。

○副会長

意見を3点。

1点目は、P.8の公共交通利用者数の変遷について。最新が2019年の調査となっているが、2020年調査結果があるなら掲載すべきではないか。

2点目は、P.39からの数値目標について。検討部会でも議論はあったと思うが、基準値について、2019年の数値を採用しているものがあるが、これは直近である2020年の数値を採用しなくてもいいのか。

3点目は、報告書冒頭ページに記載されているSDGs目標について。関連する目標として3つをあげているが、戦略を読むと様々な取り組みを掲げている。関連する目標はもっと該当するのではないかと。全体として焦点を絞るという考え方もあると思うが、より幅広く、関連しそうなところは取り上げていいのではないかと。SDGs目標が3つというのは寂しい。

○事務局

P.8の公共交通利用者数は、数値を確認した上で対応する。

数値目標の基準値については、ガイドラインからも直近の数値のみに限定するのではなく、トレンドを踏まえた「平常値」と定めている。2020年の数値は新型コロナウイルス感染症の影響が大きく表れており、「特異値」と判断し除外している。

SDGsの目標については、今回示している「8, 11, 17」の目標に加えて、例えば「3 すべての人に健康と福祉を」なども関連性としては考えられる。追加できるところは検討したい。歴史のみちの観点では「4 質の高い教育をみんなに」が関連し、クルマ社会から歩くことに視点を転換しているという面では「7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに」が該当すると思う。

○会長

「基準値」については、特異値がベースになることは望ましくなく、コロナ以前の数値をベースにする方が目的に合致していると思う。

SDGsについては、関連するものを取り上げるのは姿勢としてよいと思う。しかし、関連の程度に濃淡があると思うので、主要目標は大きいアイコンで、関連目標は小さなアイコンで表示したらどうか。

○委員

日本海側の気候の特徴でもあるが、福井は雨や雪の日が多い。冊子を見ても、雨や雪の日の写真がない。歩いてもらう環境整備のひとつには「屋根の設置」があるのではないかと。

この戦略策定がゴールでなく、これからがスタートだと思うので、今後改良を加えていくときには、雨や雪の多い地域であることも意識しながら取り組んでいただきたい。

○事務局

雨や雪の天候を考えたときに、屋根があるのは一番だと思う。屋根も、道路の幅員をすべてを覆うものだけでなく、例えば建物から庇を張り出すやり方もある。また、足元を歩きやすくという点では、融雪パネルの整備も取り組んでいる。

今後も、北陸特有の気候、環境に配慮しながら、官民が協力し、できることはやっていきたい。

○委員

P.45の「歩いて楽しい、歩きたくなるみちづくりをめざす」について、まさに同感であり、ぜひその

ように進めていっていただきたいと思う。その中で、公共交通を利用して訪れるお客様は、健常者だけでなく、車椅子を利用される方、手押し車を押される方、妊婦の方などがいらっしゃるの、デザイン的なこともいいが、段差のことを考えていただきたい。中心地を歩くと道路における段差は結構あるなど感じる。

○事務局

御意見の通り、バリアフリーは重要な事項であり再整備にあたっては十分に配慮していきたい。

○委員

P.36～37の「道路の性格付け」について、これは現況を示しているのか。また、「道路の性格付け」をP1/B3/C3などのカテゴリーに分けているが、市民の方がイメージできるだろうか。私も何か良いアイデアが浮かんでいるわけではないが。

○事務局

まず、「道路の性格付け」は将来像を示している。検討過程で、現況を踏まえているが、示しているのは将来像。P.38などは、「道路の性格付けから見た施策の方向性」として、施策立案の方向性を示している。

P.36のマトリックスについては、検討部会で議論を進める過程で、「伝えるために、視覚に訴える」として、色の濃淡やピクトグラムで変化を付けるなどの改良を重ねてきた。

○委員

現況に対し、改善すべきだから施策として取り組むものだと思う。現況に対して、改善した理想的な目標像があるとわかりやすいと思った。

○会長

P.37は将来だけを示しており、「こうあるべきもの」を示している。現状と将来を並べて比較するものではない。

○事務局

道路の位置づけとして、歩行者を優先するのか、自転車を優先するのか、自動車を優先するのか、難しいところ。

今回の地区交通戦略では、将来的にまちなかを歩いてもらうために、どこを歩行者優先としていくかという方針を示した。その過程において、まずは歩行者を整理した。次に、自転車を整理、自動車を整理し、それぞれの視点でルート設定をした。この3つのルート設定を重ね合わせてみたときに、矛盾するところを修正しながら、道路の性格付けを整理した。整理の順番からも優先度を伝えようとしている。細かく見ると、車も走る路線もあるが、福井市では環状道路を整備しており、そこからまちなかへどう入ってくるか、どう誘導するかを示している。

めざす方向は、駅周辺や商業地域含めて歩行者を優先していくということ。

○会長

いろいろ議論してこのような形に落ちついた。表現としては難しいところだが、絵的に表現しようとしたものがマトリックス、アイコン、ピクトグラムといった形を落としどころとした。

○委員

これまでの議論の積み重ねでこのような表現になっていること、過程では様々なご苦労をされていることが良く分かった。問題提起として投げかけたのは、戦略を公表する価値のひとつが、市民の

方が見て伝わるか、理解していただくことだと思っており、今回提示された報告書でそれが実践されているかというところを確認したかったためだ。市民の方に伝わりやすい形というところをこれからも意識していただければと思う。

○会長

各委員からそれぞれ意見をいただいた。御指摘いただいた点については、事務局において修正できるところは修正するというところで進めさせていただきたい。基本的には原案で承認としたいがよろしいか。

○委員

(各委員から「異議なし」の発言があった)

○会長

ありがとうございます。それでは、今後の予定等について事務局から説明願う。

○事務局

本日御議論いただいた内容について、修正がある箇所は修正したうえで、本市として決定する。その後、昨年度策定した第2次福井市都市交通戦略と、今回策定した福井駅周辺地区交通戦略の2つを一括して、国土交通大臣認定を受けるため、国土交通省へ申請する。

国との協議、調整を行う中で修正が必要になった場合の対応について、改めて協議をお願いしたい。

○会長

本日の修正含めて、各修正事項については、私が確認し対応するというで一任させていただきたいがよろしいか。

○委員

(各委員から「異議なし」の発言があった)

○会長

ありがとうございます。それでは、そのように対応する。なお、結果については、事務局から各委員へ報告したい。

以上で本日の議事はすべて終了した。事務局へお返しする。

○事務局

会長はじめ各委員の皆様へ御礼申し上げ、市都市戦略部長より閉会の挨拶の後、閉会した。

～以上～